

ピアサポート活動に対するアンケート結果まとめ

平成31年2月12日
がん患者会・サロンネットワークみやぎ

平成30年12月にピアサポート活動体験者、支援者にアンケート調査を実施しました。

回答者は42名で、内訳は体験者20名、支援者25名でした。
結果は以下のとおりです。

○実際に行っている活動

- ・病院の患者会やサロン内で活動し、会の運営や語り合いをサポート
- ・身近な人との関わりの中で、体験を活かしての対応

○活動する上で不安なこと、心配なこと

<体験者>

自分自身のスキル、活動の評価やバックアップ体制

<支援者>

個人情報や院内情報の管理、ピアサポーターと医療者の連携

○ピアサポーターが活動するために必要なこと

<体験者>

- ・医療スタッフのピアサポーター必要性の認識
- ・病院としての理解、受入体制の整備

<支援者>

- ・病院全体での体制づくり
- ・役割や機能について、ピアサポーターと病院スタッフが共通認識を持つこと
- ・ピアサポーターの質の確保、トラブル発生時の対応策

多くのピア(がん患者)は、自分の体験を生かしてお役に立ちたいという思いで宮城県がん総合支援センターの研修を受け、試行錯誤しながらピアサポート活動を継続しています。

今後はピアサポーターとして更なるスキルアップを目指しながら、身近な方々への相談対応、病院内サロンでの活動を充実していきたいと考えています。

拠点病院をはじめ、関係者の皆様のご理解と院内の体制づくり、そしてピアサポーター人財育成にお力添えをよろしくお願いいたします。

ピアサポート活動に対するアンケート結果

『がん患者会・サロン ネットワークみやぎ』
回答数:42名 H31.1.7現在

1. あなたについて伺います

体験者 20名	年齢	30代	1			
		40代	3			
		50代	7			
		60代	7			
		70代↑	2			
	性別	男	1			
		女	19			
	告知後年数	(20)	2～23年	平均 10.45年		
	治療中	5				
	治療後	15	3～18年	平均 9.26年		
支援者 25名	看護師	11				
	MSW	6				
	臨床心理士	1				
	相談員	3				
	医師	1				
	臨床宗教師	1				
	家族・遺族	2				

回答者内訳	人数
体験者	17名
支援者	22名
体験者であり支援者	3名

*うち3名：体験者であり支援者

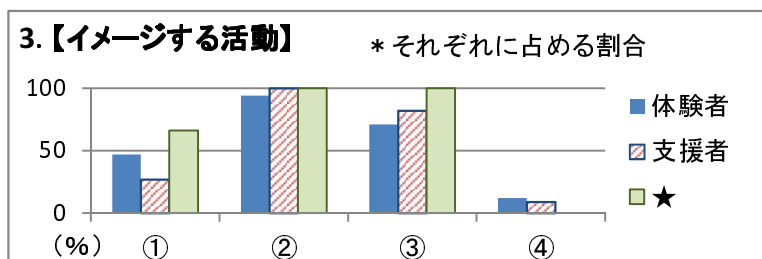
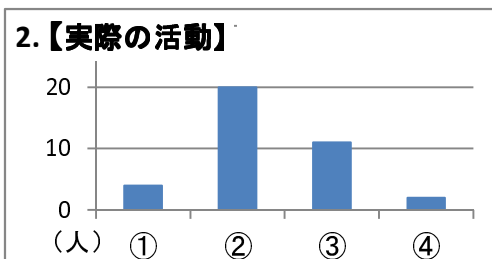
2. あなたは実際にピアサポート活動をしていますか / またそれはどのような活動ですか (複数回答)

活動の有無	件数	活動内容
活動をしている 24名	4	①病院内で活動し、病院スタッフの一員として関わる
	20	②患者会やサロン内で活動し、会の運営や語り合いの進行をサポート
	11	③身近な人との関わりの中で、体験を活かして対応する
	2	④その他(行政、他地域団体との交流他)
活動をしていない 18名		

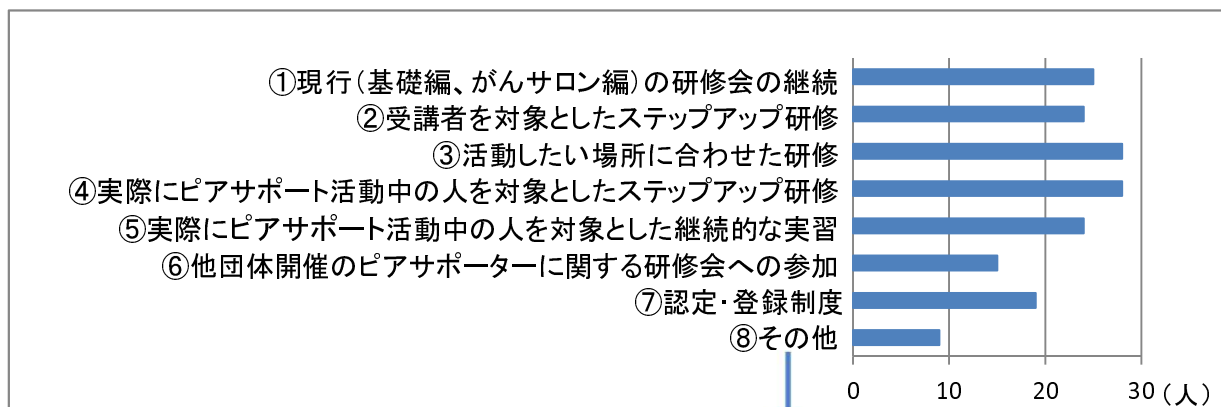
3. あなたがイメージするピアサポート活動とは、どんなものですか (複数回答)

活動内容	体験者	支援者	★
①病院内で活動し、病院スタッフの一員として関わる	8	6	2
②患者会やサロン内で活動し、会の運営や語り合いの進行をサポート	16	22	3
③身近な人との関わりの中で、体験を活かして対応する	12	18	3
④その他(行政、他地域団体との交流他)	2	2	0

★…体験者であり支援者



4. ピアサポート活動を行うにあたり、何が重要だと思いますか (複数回答)



{ 情報提供、共通認識、具体的整備指針、行政・病院の協力、有償化 }
{ 体験者同士の交流、スーパーバイザーによる相談・助言 etc. }

2. 実際に活動している中で、不安なこと心配なことはどんなことですか <抜粋>

- ・ピアサポーターの位置付けと役割が病院によって違うこと
- ・参加人数が多い場合の対応の難しさ(一人の声を聞き取りにくいこと)
- ・対応が適切だったか、相談者がどう感じたか、自分の考えが合っているのかなどが不安になる
- ・患者会の参加者が、他者の言動で嫌な思いをしていないか心配になる時がある
- ・相手が求めていることに、きちんと的を得て対応できているか不安なので、もっと多方面に勉強したい
- ・治療法は進歩し、自分が受けた時とはだいぶ違うので、専門の方々の支援が必要
- ・患者会の後継者問題

5. あなたの患者会・サロン内では、実際にどのような活動をしていますか <抜粋>

- ・企画・運営の協力
- ・会の運営(会場準備や片付け、受付)
- ・患者会の運営支援(会終了後の振り返りで患者の視点で運営に関するアドバイス等)
- ・参加者のサポート(傾聴、体験談を交えての情報提供、隣りに座るetc.)
- ・語り合いの進行をサポート、ファシリテーター
- ・話題提供
- ・療養生活に関する相談、日常生活での悩みや困りごとなどの相談
- ・補整パット作り

6. ピアサポーターが活動するために、必要なことはどんなことだとお考えですか <抜粋>

<体験者側>

- ・患者会やピアサポーターの周知
- ・病院組織としての理解・受け入れ体制の整備
- ・病院側との連携(ピアサポーターの必要性の認識)
- ・院内サロンでは病院管理者の理解と協力が必要
- ・ピアサポーターが活動できる場の拡大
- ・ピアサポーターの相談できるシステム
- ・医療スタッフの理解とサポート(軌道修正役は必要)
- ・基礎的な研修～ステップアップした研修、実践(実習)、振り返り
- ・誠意

<支援者側>

- ・ピアサポーターのリーダーシップと病院側のバックアップ体制
- ・役割や機能について、ピアサポーターと運営スタッフが共通の認識でよく理解していること
- ・病院全体での体制作りが必須
(がん相談支援、医師との連携が必要になるが、支援センターレベルでの管理は不可能)
- ・院内・施設内であれば組織としての理解と受入れ、誰がどう責任を持つのかを明確にする
- ・ピアサポーターが相談者に対してどこまで支援すべきかを患者会・サロンを運営している施設側としての基準、規定、運用を整える必要がある
- ・ピアサポーター自身がどのような会で、どのようなことを伝えていきたいのかを明確にし、会を進めやすい環境に整えること
- ・経験者＝ピアサポーターではなく、パーソナリティも含めた上でピアサポーターとなり得る人材を管理・派遣するシステム
- ・複数のピアサポーターがいることで、参加者(患者)も参加しやすい場にしていくことが必要
- ・ピアサポーターは何をどこまでできるのかという立場(役割)を明確にする
- ・トラブルが発生した場合に対処できる体制づくり
- ・ピアサポーターを活かす方法を考える
- ・会の趣旨を理解してもらう
- ・患者会・サロンの求めるニーズとピアサポーターの活動のすり合わせ、ニーズの合致
- ・ピアサポとしての基礎的な知識とスキルアップ(傾聴、共感、自分の体験を過度に押し付けない等)
- ・支援者対象のピアサポーター研修が必要

7. ピアサポーターが活動することで、不安なこと心配なことはどんなことですか <抜粋>

<体験者側>

- ・自分のスキルで対応できるのか
- ・活動の評価指導してもらえるシステムが必要
- ・問題点が抽出できるチェックシステムがない
- ・ピアサポーターの活動が悪い方向に進んだ際のフォローや連携、責任の所在など
- ・ピアサポーター自身の心のケア
- ・スタッフの人間関係、リーダーの有無

＜支援者側＞

- ・ピアサポーターとして本人が望む活動と実際とのミスマッチ
- ・個人情報や病院内の情報などの管理
- ・病院組織の中での立場や病院が求めるピアサポーター像が明確でないため、双方に意向や主旨に差異が生じてしまう
- ・問題発生時の対応
- ・自分の経験に基づいて活動をすることで、誤ったアドバイス等をする可能性がある
- ・ピアサポーターによる言葉や振る舞いは、相談者に大きな影響を与えるということを自覚して活動して欲しい
- ・ピアサポーターの負担(体力・精神面)や、ピアサポーター自身のストレスマネジメント
- ・ピアサポーターはサバイバーであるが多くの患者・家族と関わることで不安やストレスはないか。自己研鑽のプレッシャーを持たないか
- ・ピアサポーターが一生懸命になりすぎて、参加者の状況・価値観等が見えなくなり、一方的に進めてしまうこと

8. ピアサポーターについてのご意見があれば、ご自由にお書きください <原文のまま>

- ・サロンなどで、ピアサポーターの活動やドレナージュやマッサージなどを提供したい
公益法人として何が出来るかを考えているところ
- ・ピアサポーターを頼って頂ける方を多くしたい
- ・指導するのではなく、ともに生きることを喜びとすること
- ・ピアサポーターが行政と繋がりがあると、社会に体験者の声を届けられる
- ・仲間(体験者)が仲間をサポートすることの意味とその必要性(重要性)を医療スタッフや行政に広く理解してもらいたい
- ・実際に導入している現場の見学など積極的に情報収集していただきたい
- ・登録制にし、要請のあった病院に派遣する
- ・ピアサポーターは必要な存在だと思うので、十分に活躍できるように枠組みや基準が必要。そのためには関係者で十分な議論も必要だと思う
- ・サロンを利用する方の多くは同じような立場や状況の方と話がしたいと思っているため、ピアサポーターのプロフィールのようなものがあればと思う
- ・ピアサポーターだからこそできる支援があると思うので、環境が整うと良い
- ・ピアサポーターは必要だが、経験者で研修を受ければ誰でも活動できるという点は、現場として疑問がある。ただハードルが高すぎるとピアサポーターを目指す方が減ると思うので、フローのようなものがあると良い
- ・評価と支援
- ・ピアサポーターの認知度の向上が必要
- ・謝礼が出れば、やる気もでるかもしれない
- ・参加者の雰囲気をやわらげて(なごませて)欲しいと思う
- ・認識が統一され、レベルが一定以上になるよう、研修の在り方とピアサポーター制度の支援をしてくれる国や県のサポートが欲しい。今は手探り状態で中途半端です
- ・基礎の研修は必要ですが、研修ばかりでは意味がない。不安を抱えている人が話をできる場が増えれば良いと思う
- ・勉強はしたい
- ・宮城県でのピアサポーターの現状(人数、活動の現状)を把握することが必要。ピアサポーターが関わること自体は有意義なことだと思う。ピアサポーター自身の体調にも考慮した活動を検討したほうがよいと感じる。
- ・自分と同じ経験をしている人と話ができること、先の見通しを持てるようになることは患者さんにとっても前向きに治療を行う一歩となると思うので、ピアサポーターが増えていけばいいと思う。ピアサポーター自身が負担感などを感じることなく活動を続けていけるような取り組みも必要
- ・宮城県としての現状の把握が必要。ピアサポーター研修を受講した方の人数、現在の活動状況、ピアサポーターの方達の意向を確認したい。その上で、各施設での受け入れを検討していきたい
- ・ピアサポーターが、相談員や臨床の看護師等とは違う強みを生かすにはどうしたら良いか
- ・今が、今後のピアサポーターの位置、重要性など考える時期なのだと強く感じています。宮城県では、どのようにしていくかアンケート調査をして下さり、大変感謝しております
- ・どの人自身が、なぜピアサポーターになりたいと思うかという気持ちも考慮する必要がある
- ・告知を受けたばかりの患者には、経験者の話を聞きたいという切実な願いがある。患者にとって一番身近な病院にピアサポーターが配置されることで、患者が積極的に治療が受けられたり、不安を払拭できるのではないかなと思う
- ・病院スタッフより身近な存在で、体験・気持ちを共有できる貴重な存在です
- ・ピアサポーターの方への継続的な研修(養成研修以外の研修)
- ・ピアサポーターの継続的な研修、病院内サロン等のネットワークづくりが必要